

支えられて、私たちが存在していることに、改めて気づかされました。

二つ目は、職員の前向きな姿勢です。縮小期間中、個別の対応や感染症対策、システムの見直しや新しいプログラムの開発など、通常の業務以外に様々な負担があった



ご利用者も生活のリズムが崩れたり、社

思っております。新型コロナウイルス感染症対策で縮小したとはいえ、この間、ご家族は自宅で常時介護を継続され、いつも以上に負担が大きくなったと思われます。

白楽荘デイサービスセンターの縮小期間中、ご利用者並びにご家族の皆さまには、大変なご負担をおかけしたと

と思います。仕事だから当たり前……そうかもしれません。しかし、「きっとこんなことができれば、喜んでもらえるよね」「何て声を掛けたら安心するか」。このような職員の声が聞こえてきました。

私たちが何をしなければならぬのか。何のためにこの仕事に就いているのか。今一度考えられられ、そこから得たことは貴重なものとなりました。

お詫び

寄附のお礼

令和2年1月から6月20日までに、10件の寄附を頂きました。ありがとうございます。(敬称略)

現金

溝上澄生 100,000円 匿名2件 250,000円

物品

マスク：学校法人常陽学園（東京医療学院大学）
山岸信雄、山森敏子、匿名1件
匿名で、介護チェア、テレビ、ポータブルトイレ

ご利用者の命を守ることを優先し
白楽荘デイサービスを3週間大幅縮小

「とうとう来たか！」

職員と一緒に目を合わせたのを覚えています。多摩市でも四月の二週目より新型コロナウイルス感染症が発症し、私たちの目の前に迫ってきました。二月末から、感染症対策やサービスの運営方法について、法人内の対策本部を中心に検討してきた中で、マニュアルも含めて準備は進めていました。しかし、心の準備をする時間はありませんでした。

大切なこと

近隣事業所からの新型コロナウイルス感染症発症、市内の感染状況などの考慮、サービス縮小によるご利用者とご家族への影響などを考え、どんな対応方法が良いのかを模索してました。

「一番良い方法は何だろう？」
その時、ある職員からの一言で気づかされました。
「ご利用者の命を守ることを優先するサービス内容でいきましょう。」

四月一八日に変更内容を全職員に伝え、四月二三日からの

縮小体制開始に向けた準備に取り掛かりました。ご利用者やご家族への負担を考えると、申し訳ないという気持ちもありました。

縮小の概要

四月三日から五月二日までの大幅な縮小体制について

ほのぼの（認知症対応型通所介護）は、一日にご利用される方の人数を制限し、通常のサービスの内容としました。密を避けるため、えがお（通所介護）は、通常のサービス提供を中止し、主に入浴サービスを中心とした個別対応を一日に十人程度実施。また、通所介護職員による自宅への訪問により、リハビリや排泄、傾聴活動などのサービスを行いました。

五月二日から五月三十一日までの縮小体制について

ほのぼのとえがおのご利用者、対応する職員を完全に分離して、ほのぼの通常定員で再開し、えがおは、一日の利用人数を制限して、通常通りのサービス内容としました。

新型コロナから得たもの

六月一日より、新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、通常規模でサービスを再開しています。

「事業所から新型コロナウイルスが出たらどうしよう。」

そのような不安は、今でも拭い切れませんが、しかし、今回の件を通じ、私たち白楽荘デイサービスセンターが得たものが二つあります。

一つ目は、皆さまへの感謝の気持ちです。私たちは今まで、介護保険サービスを通じて、地域やご利用者の皆さまを支えていると思っていました。しかし、この縮小期間に、ご利用者やご家族から「頑張って」「早く白楽荘に行きたい」「いつもありがとう」など、たくさんの労いの言葉を頂いて、皆さまに

的な活動の場を一時的にも失うことになりました。

今後の感染症の動向や社会情勢も不安定な状況ですが、皆さまから頂いたご意見や思いを反映できるよう、感染症対策をしっかり継続し、白楽荘デイサービスセンターえがお・ほのぼのの運営を行ってまいります。(文責 在宅サービスセンター所長 齋藤誠)